

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：R4年3月29日

事業所名 LR+きす保護者等数（児童数） 15 回収数 10 割合 70 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	10				安全面を考慮してスペースが確保されている。	
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	9			1	少ない時もあるかもしれない。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	10				個性を考慮していると思う。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	10				きちんと消毒されていて、良い環境だと思う。	継続し、保つていきたいと思いません。
適切な 支援の 提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	10					
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	9			1		
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	10					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	9	1				
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	4		1	5	相談員の方などで情報共有していると思う。	今後も連携をとりながら取り組んでいきたいと思いません。
保護者 への 説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	9					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	10				定期的になされている。	継続して行なっていくたいと思いません。
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	8			2		

	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の様態や課題について共通理解ができているか	10				
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	10				
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	8	1		1	交通の「悩みか」聞けてよかったです。 今後も、そういった機会を設けていきたいです。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	10				
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	10				
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	7	2		1	
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	9			1	
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	7			3	
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	4			6	
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	10				「楽しかった」と言っています。楽しそうで何よりです。 -一年間通って、たくさんできることになりました。ありがとうございます。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	10				もっと楽しんで頂けるように精進していきます。 -さらにより成長できるよう、見守り、寄り添い支援していきます。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果（公表）

別紙3

公表：R4年3月29日

事業所名 LR+きす

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			活動内容ごとに関具の出し入れを行い安全に活動ができるように配慮している。
	②	職員の配置数は適切である	6			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6			
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	1		
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6			1月-の会議で情報を共有し目標の振り返りを行なっている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			1年に一回、弊社のアンケートをとり、業務改善を行なっている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	2		2年目以降となっている。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3		今後、第三者評価機関に依頼し、外部評価を実施する予定。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1		毎月行なっている。 1月-の会議で勉強会を実施し、研修の機会を確保している。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			ガイドラインに沿った内容を中心に個人に合わせた活動と小集団での活動など、様々な活動で支援内容を設定している。

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			・毎朝、職員ミーティングを行い、朝の利用者や人数等を確認し、活動内容や注意点を話し合っている。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			・利用者帰宅後、ミーティングを行い、良かった点、改善すべき点を話し合い、共有している。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			・毎日ケース記録を書き、職員間で共有し、改善につなげている。
	⑳	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6			
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5			・医療的ケア児を受け入れていない。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5			・医療的ケア児を受け入れていない。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6			
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6			
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1		・今後、他事業所や市の母子保健課とも積極的に関わり、連携して支援していきたい。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	2		・コロナで実施できていない。 ・全くではないが交流場面は少ないと感じる。

	⑳	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	2		・コロナで参加できにくい。
	㉑	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			・送迎時やお迎えの際に状況を伝え、共通理解を図っている。
	㉒	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5			
保護者への説明責任等	㉓	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			支援内容の取り組み等、変更がある時は必ず説明を行い、同意を頂いている。
	㉔	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			
	㉕	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	㉖	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6			・昨年、12月に保護者会を開催し、保護者の悩み等、共有した上で、保護者同士の連携を支援した。
	㉗	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	㉘	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			
	㉙	個人情報の取扱いに十分注意している	6			
	㉚	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	㉛	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2		・できている年度と、できていない年度がある中で、今後必ず同じ地域住民を含めた行事に参加できるように努めたい。
	非常時等の対応	㉜	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		
㉝		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			・年に2回、避難訓練を行い、避難経路の確認と非常用具の確認をとっている。
㉞		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	5	1		

44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			・アセスメントの時点に、食物アレルギーの有無を確認し医師の指示書をもとにしている。
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	3		
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			・会議にて虐待防止の勉強会を開催し虐待に対する知識と意識を固めている。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。